巻頭言

アタック No. 1 と Well-being

波多野睦子 Mutsuko HATANO
東京工業大学工学院　教授

私はスポーツ根性アニメ「アタック No. 1」に感化された世代。主題歌「苦しくったって悲しくったってコートの中では平気なの」と鮎原こずえ，「失敗を恐れずに何度もやれば必ず成功する」と本郷コーチ。「木の葉落とし」のような独創的な技を生み出し No. 1 を目指せ！ の挑戦にワクワク。昭和っぽいが，未来社会にも通じるのではないかしら？

知識がAIでも得られつつある現在，必要なのは変化をいとわない創造力のある人財であろう。超複雑化している社会課題を設定・解決するには，尖った才能，総合知を含む人間的な資質，そしてそれらを協創する環境が重要である。また Well-being は創造性と相関関係にあり，個人や組織の持続的な発展に貢献することが示されている。アタック No. 1 は，崇高な目標（世界一）の達成に向け創造的な技を持つ仲間，自分が好きなことに情熱を注ぐ幸福度の極み，まさに Well-being 好循環のメッセージと共感する。

しかし，日本の幸福度の順位は 137 ヵ国中 47 位（World Happiness Report 2023）であり，健康寿命は長いが人生の選択の自由度や寛容さに課題があるという。また私が大学で危機に感じるのは，研究の楽しさを経験する前に就活開始で博士進学への機会を失うこと，さらに時間の掛かるハードウエア実験の軽視や空洞化の兆候である。自らのアイデアの研究に何度失敗しても，数十回に 1 度でも新しい結果が得られた充実感と小さな成功体験の積み重ねが，将来にどれだけ大切か。大学や学会は，広い年齢含めたダイバーシティに，好きなこと・やりたいことを見いだす機会をつくらねばならない。入試や研究者の評価なども見直し，特異な才能と人間力を引き出して飛躍させれば，博士人財の多様なキャリアパスの拡充，さらには国際頭脳循環が加速する。そして早期就活を見直し，好きなことを見つけて集中→目指したいキャリアを明確化，というステップでじっくり進むことが Well-being につながると考える。研究力の低下が指摘されてはいるが，個人の強みを活かした異能集団が分野を超えてダイナミックに協創すれば新たな価値が創出でき，崇高な目標に向かって成長する国に若返ると私は信じる。「大人になったらなりたいもの」調査（第一生命）によると，「学者/研究者」がランクイン，また 1 位の会社員では「科学技術・ものづくり」の分野が変わらぬ人気という。世の中の役に立ちたい，と志す子供たちの将来が楽しみで，さらに STEAM 教育の強化で Well-being な未来社会を実現してくれるでしょう。

ところで化学会の異能と私の分野の応用物理学会の協創を期待する。こちらのテーマは量子。化学は理想的な量子ビットが自在に設計できるはず。ご一緒に楽しみませんか？ おっと，AI でも書ける巻頭言になってきました。Well-being⇔創造性を強化するわよ！！

© 2024 The Chemical Society of Japan